

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2019年7月1日発行（毎月一回発行）第739号

July
2019 7

● 出会い・本・人

神谷美恵子の著作をめぐる 釘宮明美

● 特集「感性を高めるキリスト教美術書」なら

この三冊！ 吉松 純

● 本・批評と紹介

岡田 聡著 ヤスパースとキリスト教 茂 牧人

B・S・チャイルズ著／田中 光、宮崎 薫、矢田洋子 訳

教会はイザヤ書をいかに解釈してきたか 鎌野直人

H・J・クラウク著／小河、陽監訳、吉田 忍、山野貴彦、
河野克也、前川 裕 訳

初期キリスト教の宗教的背景上・下 浅野淳博

原 敬子、角田佑一 編著 「若者」と歩む教会の希望 李 聖一

春名純人著 キリスト教哲学序論 市川康則

ヒツポリュトス著／大貫 隆 訳

キリスト教教父著作集19 ヒツポリュトス 全異端反駁 山本 巍

上林順一郎著 なみだ流したその後で 山北宣久

佐藤司郎著 カール・バルトとエキユメニズム 中道基夫

佐々木哲夫著 命のファイル 小友 聡

長谷川正昭著 笑いと癒しの神学 西原廉太

潮 義男著 創世記講解上 古賀 博

● 広告記事 座談会「聖書 聖書協会共同訳」を翻訳して

阿部 包、飯 謙、春日いずみ、吉田 新(司会) 島先克臣

近刊情報
書店案内

夜と霧の明け渡る日に

未公開書簡、
草稿、講演

ヴェイクトール・フランクル／赤坂桃子訳

6月24日

名著成立の秘密！

強制収容所からの解放と帰郷というフランクルの人生で最も重要な時期の伝記的な事実と、当時の中心思想の一端を、貴重な文書を用いて再構成。名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が初めて明確に交差する。

◆四六判・本体2400円



協力と抵抗の内面史

歴史への新視点！

富坂キリスト教センター編

戦時下を生き延びたキリスト者たちの研究

「戦争協力者」か「抵抗者」かといった一面的裁断を排し、追隨・加担・協力、沈黙・拒否・抵抗の諸相を重層的に跡づけようとする。日本人キリスト者のみならず植民地下の現地のキリスト者にも着目する。教会史への新たな視角。

◆四六判・本体2000円

橋をつくるために

現代世界の諸問題をめぐる対話

教皇フランシスコ、ドミニック・ヴォルトン／戸口民也訳

戦争、貧困、環境、難民、アイデンティティと伝統、異なる者同士のコミュニケーション、教会のあり方などをめぐり、著名な社会学者が1年間にわたりに行った興味尽きないロングインタビュー。

◆四六判・本体2600円



評伝 矢内原忠雄

1100枚の大作！

関口安義（都留文科大名誉教授）

激動の生涯を綿密な調査と膨大な資料を基に描いた決定版評伝。

◆A5判・本体8000円

好評

〈グローバル・ヒストリー〉の中のキリスト教

近代アジアの出版メディアとネットワーク形成

ミラ・ゾンターク編

◆A5判・本体5200円

キリスト教史への新たな視角＝〈グローバル・ヒストリー〉！

〈グローバル・ヒストリー〉という概念を手がかりに、大陸をまたぐネットワークと多極構造を反映する新たなキリスト教史の構築を目指す「ミュンヘン学派」。主導するクラウス・コシオルケ氏ら7名の論者が、近代東アジアにおける活字メディアに着目した意欲的共同研究。



神谷美恵子の著作をめぐる

釘宮明美

学生時代、私は在籍していた学科と自分の関心・問題意識との乖離に苦しんだ。将来の選択を前に実存的不安に吞み込まれそうだった。記憶の中では、授業よりも図書館で

過ごした時間のほうが濃密だったかもしれない。大学図書館の中二階にあった精神医学書のコーナーには、フランクルや霜山徳爾、中井久夫や森田正馬らと並んで、みず書房出版の『神谷美恵子著作集』が配架されていた。

二十代前半の私が愛読したのは、補巻扱いだった『若き日の日記』である。本書は、神谷の二八歳から三一歳になる前までの日記を収める。尽きせぬ内面生活の豊かさとしてゆえの医学か文学かという葛藤、その矛盾する性向をありのままに神と人とに差し出し、「魂の認識」に献身していかうとする彼女の決意と祈りは切実に心に響いた。日記にも痕跡を留める神谷自身の喪失の原体験やハンセン病患者との関わりは、後に著『生きがいについて』へと昇華・

統合されていく。神谷が述べる精神的な「変革体験」は、神からの「内なる光」としても語り得たように、人間の生が何によって根拠づけられているかを問う。

無教会の東大聖書研究会で川中子義勝先生から聖書の手ほどきを受けたのは、大学院生の時である。実人生に活きて働く聖書の言葉の力を知った。同人誌「現代文学」の故饗庭孝男先生の紹介で、神谷美恵子の講座を朝日カルチャーセンターで担当させていただいたのは二〇〇二年の秋。以来、キリスト教放送局FEBBCをはじめ、神谷に関する講演や講座を何回担当させていただいたことだろうか。私よりもはるかに人生経験を積まれた方が自らの思いを手紙に綴って下さったこともあれば、津田塾大学で神谷に教えを受けた方にも出会った。私の人生もまたそのような人々によって生かされ、建て直されたのだと思っている。今年神谷美恵子没後、四十年を迎える。

(くぎみや・あけみ 白百合女子大学教授)



「感性を高めるキリスト教美術書」なら ▲この三冊！

吉松純

(よしまつ・じゅん・金城学院大学人間科学部教授／宗教主事)

「絵は感性で見る」という発言をよく耳にします。もちろん、感性は大事ですが、多くの方が感性と感情を混同しているように思います。感性は名画に触れ、本を読み、経験することによって研磨されます。このコラムでは感性を高める三冊をご紹介しますと思います。

正田倫顕『ゴッホと〈聖なるもの〉』

本書を読み、私はカーク・ダグラス主演の「Just for Lie」邦題「炎の人」（一九五五年）を思い出しました。「炎

の人」は三好十郎の演劇で有名ですが、劇中のゴッホは暗く重たく描かれています。本書のゴッホも暗く重たい感じがします。しかし映画のゴッホにあまり暗さはありません。「Just」は「渴望」「情欲」の意味でゴッホは命の限り美を欲した人として描かれました。映画のゴッホを陽とすると正田氏のゴッホは陰でしょうか。

正田氏のゴッホはいつも弟のテオにお金を無心していた落後者で、人生に悩み、死の恐怖に取り付かれています。

実際ゴッホは何度もテオに仕送りを頼み、送金を受けては感謝しています。そして精神錯乱で耳を切り、拳銃自殺をしました。しかし私は美を追求し続けた彼に悲惨な影を見ません。彼は全てを忘れて全身全霊を籠めて絵画制作に没頭した。若い頃私も親に無理をさせてニューヨークの美大に留学しました。家計を考えると申し訳なく不安にもなりましたが、絵を描いている時は親も、お金も、明日のことも考えませんでした。ただ絵を描き続けました。同様に制作中のゴッホは不安や悲惨さはなかったのではないかと思います。

正田氏は絵画の構図、色などを全てゴッホの宗教性と結びつけています。それを否定はしませんが、私は構図や色や物は純粹に美的配慮なのではないと思います。正田氏は「ドービニーの絵」の解説で画面右上方に描かれている教会は実際にゴッホが写生した位

置からは見えないがわざわざ書き込み、その理由としてゴッホは自分と仲だった父や自分を伝道者にしなかった教会、貧者に閉ざされた教会を否定しつつも、生れ育った教会への思いがあったと推測し、だから描かれた教会にはゴッホの愛着と嫌悪というアンビヴァレンスがあると述べています。

しかしそれだけが見えないはずの教会を描き入れた理由でしょうか。それはこの教会を覆い隠して見ると解ります。途端に画面左上方にある深緑の塊が重くのしかかってきます。つまり教会が無いと左側が極端に重くアンバランスになってしまうのです。教会は構成上不可欠だった。これは画家の立場で見た解釈です。

正田氏は宗教性という言葉を繰り返して述べゴッホの特異性としています。一方「信仰」という言葉は最後の方に否定的な形で出てきますが、ほとんど

語られていません。私はゴッホはもつと信仰深かったのではないかと思えます。ゴッホ好きの方は彼の絵画から感じられる人間性と正田氏のゴッホと比較してみるのも面白いかもしれません。

近藤在志『キリストの肖像』

私の偏見ですがイギリスはブレイク、ターナー、流行りのバンクシーなど時折天才が出ますが、美術はあまり優れているとは言えません。イタリアのルネサンス、フランスの印象派、ドイツの青騎士のような流派は出現していません。

そんなイギリスで一八四八年に徒花のように現れたのがラファエル前派（以後前派と略す）です。メンバーはロセッティ、ミレイにハント。皆二〇代前半の若い芸術家で（「宗教」美術はラファエロ以降、彼の模倣ばかりで墮落した。絵画にラファエロ以前の輝きを取り戻す。」という絵画復興を提

唱しました。

日本でもロセッティや前派の影響を受けつつ耽美主義に傾倒したバーン・ジョーンズなどは人気があり、二人はイギリスのオールヌーボーなどの装飾的美術の先駆けとなりました。しかしイギリス人芸術家と十九世紀のキリスト教の動きを関連付けて語ることはあまりされてこなかったように思います。

近藤氏はまず日本人には馴染みのないドイツのナザレ派という宗教芸術の流派を紹介し、その影響を受けたイギリス人芸術家と十九世紀のイギリス・キリスト教史と美術史の関係を明らかにしています。中でもハントとバーン・ジョーンズについての記述は他の画家よりも多く、彼らがいかに聖書物語の表現に取り組んだかが良く分かります。また十九世紀のイギリスに起こったアングロ・カトリック運動（通称ハイ・チャーチ運動。学生や貴族、教養

人の心を捉えた英国国教会改革運動)でカトリック教会の形式や荘厳さに理想を求めた英国国教会が芸術家たちに与えた影響などを解説しています。

またブロード・チャーチ運動(別名ロウ・チャーチ運動。大衆にアプロウチした社会福音運動)というイギリスの大衆伝道にも触れ、前派の画家たちと長年交流のあったブラウンに多大な影響を与えたことも記されています。ブラウン自身一般大衆、労働者階層へ熱心に伝道しており、彼が最も貧しい者でもあるキリストをどう表現しようと試みたかを考察しています。本書は一九世紀イギリス人芸術家たちの信仰を取り上げた意欲作で読者も新たな前派を発見し、更に深く絵画鑑賞できるのではないのでしょうか。

宮下規久朗『知識ゼロからのルネサンス絵画入門』

聖書学者やキリスト教学者が執筆し

章・キリスト教、第二章・聖書を彩る女たちで、第三章以降は神話、人物、風俗・生活、幻想とキリスト教からは離れますが、美術好きには必読の書です。もつと絵の主題や配置物の意味を

たキリスト教美術の本は聖書が主で美術が従となりがちです。絵画は聖書物語の「刺身のつま」となりキリスト教美術解説としては物足りません。また美術史家の著書は聖書解釈や神学、教会史理解に物足りなさを感じます。そんな中、宮下氏の著書は美術作品の主題、構図や色、小物の意味を明確に解説している卓越した本です。宮下氏は美術史のみならず教会史や聖書にも造詣が深く、キリスト教美術好きにはお勧めです。

美術史でルネサンスを文芸復興、芸術隆盛期などと高く評価し中世は美術や文化にとつて暗黒の時代と呼ばれることがありますが、これは大きな誤りです。中世はキリスト教文化、美術が花開いた時期と言つても過言ではありません。作品の中に神性表現を追求し、錆びない(と思われていた)金で背景を塗り神の永遠性を表し、古代ローマ

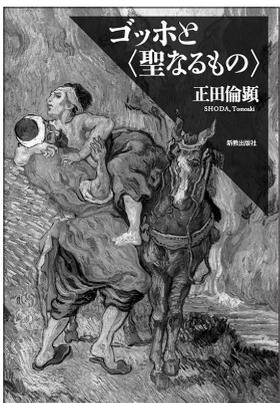
知りたい方には『モチーフで読む美術史1、2』などもお勧めです。以上、三冊のタイプの違う本をキリスト教美術という括りでご紹介しましたが他にも素晴らしいキリスト教美術

時代には既にあった初期遠近法を廃してマリアやキリストを巨大化し、彼らの卓越性を表すなど信仰表現と言えろ技法を追求しました。

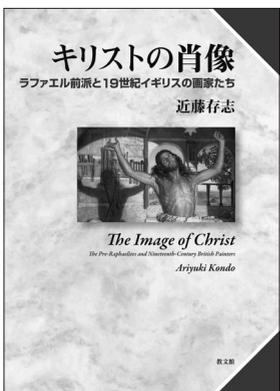
ルネサンスはギリシャ・ローマの芸術に価値を見出し、遠近法など絵画が3Dに見えるように自然科学を追求しました。キリスト教美術にも人間性表現、自然表現が浸透していきます。結果、宗教画は次第に神性を失いました。しかしいきなり神性を失ったのではなくベアト(フラ)・アンジェリコやダ・ヴィンチやミケランジェロ、デューラーやグリューネヴァルトなど多くの芸術家が人間性表現の内に神を描きました。

宮下氏の著書を読むと、芸術家たちの秘めた意図や色、背景、配置物などに隠された神学的意味がより深く理解できるようになります。本書では全ての章がキリスト教美術ではなく第一

の本が多々ありますので是非お読み下さい。きっと皆さんの聖書理解が深まり、キリスト教美術の奥義が見えてくることでしょう。



『ゴッホと〈聖なるもの〉』
正田倫頭：著
新教出版社
2017年刊
A5判204+14+口絵38頁
2700円(税別)



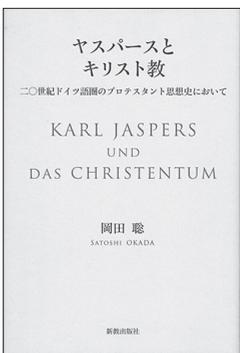
『キリストの肖像——ラファエル前派と19世紀イギリスの画家たち』
近藤存志：著
教文館
2013年刊
A5判204頁
2500円(税別)



『知識ゼロからのルネサンス絵画入門』
宮下規久朗：著
幻冬舎
2012年刊
A5判151頁
1300円(税別)

哲学と神学との対話を拓く良書

〈評者〉 茂 牧人



ヤスパースとキリスト教
二〇世紀ドイツ語圏の
プロテスタント思想史において
岡田 聡著

一般に日本の神学の世界では、哲学的な洞察を拒否する姿勢が強い。他方、哲学の世界では、キリスト教思想と対話することは稀である。そのように哲学とキリスト教思想との対話を研究することは日本ではあまり多くない中、この度岡田聡氏によって、ヤスパースと二〇世紀のドイツプロテスタント思想との対話、両者の対決を考察した良書が刊行された。このこと自体、大変喜ばしいことである。

本書は、岡田氏が、二〇一四年に早稲田大学に提出した博士論文に基づき、ヤスパースとキリスト教との関係を論じた部分に加筆修正して成立したものである。一筋縄ではないかな哲学と神学との対話を実現した労苦に敬意を表したい。

著者は、第一部でヤスパースへのキリスト教の影響を、ナチズム時代前、その時代、その時代以後と三つの時期に

分類して整理する。この考察によって、ヤスパースをプロテスタントの思想家として規定する。第二部は、ヤスパースのキリスト教への影響について、ブルトマン、ブリー、ティリツヒ、バルト兄弟などとの対話を取り上げている。このような作業を通して、共通点と相違点を浮き彫りにしていくのである。

本書の前半のヤスパースに対するキリスト教の影響をみていくと、いくつかの観点が取り出せる。第一にヤスパースが終末論を考へるとき、当時の神学者たちが、「永遠の現在」を考へる「現在終末論」の立場を取っていることと共通している(第一章)。また、ヤスパースは戦後「聖書宗教」を提唱して「聖書の転回」を遂行するが、決して聖書のある宗派の独占物として考へることはせず、イエス・キリストを歴史的な客観的事実として固定化する啓示信仰

を拒み、あくまで普遍的に「根源的なものへの回帰」を求めていく(第二章)。しかし、著者は、そのようなプロテスタント原理は、ルター「隠された神」と「現された神」との対立を超えた「絶対的な隠れたる神」の思想と類似点が多いとする。なぜなら、ルターの超絶した神とヤスパースの暗号解読の「解釈不能な挫折」とは類比的であるからである(第三章)。

第二部では、二〇世紀のプロテスタント神学者たちとの対話を考察して、その中に「近さの中の遠さ」を取り出す。例えば、ヤスパースは、ブルトマンの非神話化とその帰結としての新約聖書の自己自身を棄却する「本来的な人間」の実存理解は高く評価するものの、逆にブルトマンにおいてはそれがキリストの存在から可能となっており、十字架

の出来事という神話の残滓が残ってしまうと批判する(第四章)。以上のような「近さの中の遠さ」が、ヤスパースとプロテスタント神学者たちとの間に残っていると指摘する。ヤスパースはときにキリスト教への批判を展開していることもあって、日本では彼とキリスト教神学との対話についての研究はそれほどなされてこなかった。本書の意義は、ヤスパース哲学と二〇世紀プロテスタント思想の共通点と相違点を「近さの中の遠さ」として整理して今後のヤスパース研究へ多大な貢献をしたと言えること、さらにそこから現代における哲学と神学との対話の可能性が開かれたことにあるだろう。

(しげる・まさと)青山学院大学総合文化政策学部部長
(四六判・二二四頁・本体二五〇〇円+税・新教出版社)

神学ダイジェスト126号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2019年6月発行
A5判112頁
定価630円(税込)

特集 女性の叙階
巻頭言 聖公会における女性聖職
ビンゲンのヒルテガルトはなぜ女性の司祭叙階を否定したか A・トンプソン
女性の司祭職について J・シースル
女性助祭の復活 G・パニ
助祭の霊性 J・キッテル
ジェンダーと霊性 P・ザガノ
『愛のよろこび』とその背景 S・ペムゼル
『ラウダー・シ』にみる教皇フランシスコの思想 G・オコリンズ
R・マルクス

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

聖書解釈史からの 正典的アプローチ入門

〈評者〉 鎌野直人



教会はイザヤ書を
いかに解釈してきたか
七十人訳から現代まで
B・S・チャイルズ著
田中 光、宮崎 薫、矢田洋子訳

英語圏における聖書学全般に大きな影響を与えてきたB・S・チャイルズの著作は、ほとんど日本語には翻訳されていない。その中で、今回、田中光氏を中心とした翻訳者によってチャイルズの聖書解釈史に関する著作が翻訳されたことを心から歓迎している。

本書でチャイルズは、七十人訳聖書と新約聖書からはじめて、ユスティノス、エイレナイオス、アレクサンドリアのクレメンス、オリゲネス、カイサリアのエウゼビオス、ヒエロニムス、ヨアンネス・クリュソストモス、アレクサンドリアのキュリロス、キュロスのテオドレトス、トマス・アクイナス、リールのニコラス、マルティン・ルター、ジャン・カルヴァンとたどり、最後には、一七世紀から一八世紀の解釈者たち、一九世紀と二〇世紀の解釈者たち、そしてブルッゲマンをはじめとしたポストモダンの解釈者

たちにいたるまで、彼らのイザヤ書に関する著作を検討している。東方教会の聖書解釈者も含まれているが、西方教会における聖書解釈、そして近年に至っては欧米圏における聖書解釈に焦点が当てられていることはこのリストからも明らかだろう。邦題から、『聖書解釈の歴史』のイザヤ書版であると期待して、多くの人は本書を開くのではないだろうか。

確かにそれぞれの解釈者の聖書解釈の特徴がまとめられている。しかし、聖書解釈史の記述が本書のゴールではない。原題が『イザヤ書をキリスト教聖典として理解するための苦闘』であるように、「キリスト教の聖典」である旧約聖書をどのように理解すべきか、チャイルズ自身がその生涯において苦闘してきた問いかけに対して、教会の解釈者たちがどのように答えてきたのが本書で検討されている

る。したがって、最終章である「解釈学的結論」に読者は注目する必要がある。

多様性を認識しつつも、チャイルズはキリスト教会による旧約聖書釈義には系統的類似が存在すると主張している。具体的には、聖書の権威、聖書の字義的および霊的次元の認識、旧新約聖書という二つの書物によって構成された聖典においてこの二つの関係の考察、聖書の著者が神であるという告白と人が神の言葉を伝達する著者であるという事実との関係、聖書の統一性の問題への取り組み、複数の意味を持つ聖書がキリストという一つの対象を指し示しているという確信、聖書の歴史における一般的出来事と神的出来事との緊張関係の認識である。チャイルズが他の著作で主張している正典的アプローチとは、これらの系統的類似

を踏まえたものである。したがって、本書は、田中氏自身が意図しているように（翻訳者との私信による）、正典的アプローチへの聖書解釈史という方面からの入門書ととらえるべきである。そして、本書を読む際には、各釈義家への評価基準が、チャイルズのアプローチと響き合っているか否かであるという点を留意すべきだ。

チャイルズは時に、自身と同等の幅広い知識を前提に文書を書く。そのため、翻訳者にとっては翻訳そのものが「苦闘」であったと想像される。それでもなお、そのゴールにたどり着いた三氏に心から敬意を表するとともに、チャイルズの著書が続いて翻訳されることを心から望んでいる。（かまの・なおと 関西聖書神学校校長）
(A5判・五〇六頁・本体六八〇〇円＋税、日本キリスト教団出版局)

1998年にいのちのこぼ社より
刊行されたデポジションの名著

待望の復刊!



主の前に静まる

片岡伸光

大嶋重徳 / 小泉健 解説

静けさの中でこそ、人は神に出会い、自分に出会う。34の滋味豊かなエッセイによって、読者を主の前に静まることへと導く。幻の名著に、新たな解説を付して復刊。聖書は新改訳2017・新共同訳を並記する。
四六判・128頁・1296円

説教黙想 アレテイア エレミヤ書

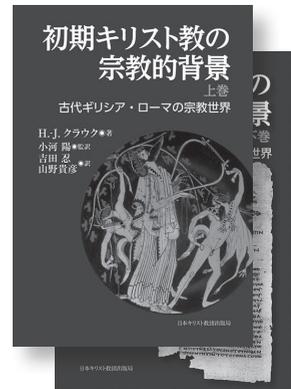
季刊誌『説教黙想 アレテイア』第92～95号に連載された説教黙想の合本。エレミヤ書の概説と重要51単元の丁寧な黙想を通して、聖書の御言葉の真理を導き出す。B5判・320頁・4,320円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

初期キリスト教理解を促す よき案内書

〈評者〉 浅野淳博



初期キリスト教の宗教的背景
古代ギリシア・ローマの宗教世界 上・下
H・J・クラウク著 小河 陽監訳、
吉田 忍・山野貴彦・河野克也・前川 裕訳

本書（上・下巻）はハンス・J・クラウク著 *Die religiöse Umwelt des Urchristentums* (1995/96) に新たな二次資料をも加えた改訂英訳版の *The Religious Context of Early Christianity: A Guide to Graeco-Roman Religions* (2000/2003) の邦訳です。副題が示すとおり、本書は初期キリスト教が置かれた古代ギリシア・ローマ世界の（広い意味での）宗教的文脈へ読者を案内することを目的として書かれています。著者はこの宗教的文脈を、民間宗教と家内宗教、密儀宗教、民間信仰（以上が第一巻）、支配者の神格化、哲学諸派とその宗教性、そしてグノーシスの変容（以上が第二巻）に分け、関連する一次文献を手がかりとしつつ、それぞれの宗教現象の諸相を丁寧に解説し、さらなる学びを促す二次文献をも紹介します。

第一巻の（一）「民間宗教と家内宗教」の章は、民衆がトア派、エピクロス派、中期プラトン主義の思想が、いかに初期キリスト教神学と類例的に併走しつつも多くの点で異なるかを教えます。そして（六）「グノーシスの変容」では、グノーシス主義と初期キリスト教との関係性に係る議論にまだまだ決着がないことを前提としつつ、さらに「グノーシス」という語が諸現象を傘下に置くべき適切な用語かとの議論を充分に意識しつつ、それでも初期教会の出現を理解する有用な宗教現象としてそれらを描写します。本書は、伝統的な宗教史学派が教会の出現とギリシア・ローマの宗教諸現象とを直接的に関連させる傾向から距離を置きつつも、ユダヤ教伝統との系統的な繋がりと、他宗教との類例的な比較とにおいて新約聖書テキストを有機的に理解するという、よりバランス感覚に富む分析を前提と

日常と非日常との均衡（「境界性」）維持をとおしていかに安寧と希望を希求したかを探り、その共通する思いが多様な宗教表現に反映されている様子を私たちに気付かせます。（二）「密儀宗教」の章では、「密儀」の定義が示すとおり不明な点が多い中、いかに寓喩的なテキスト理解が公的な供儀等を排他的体験へと変容させたか、読者は一次文献の行間からその様子をのぞき込む機会を得ます。そして（三）「民間信仰」は、より民俗学的な治癒行為、預言／託宣、魔術、占星術を扱いながら、これらが右の二つの宗教様態をも跨ぐ「宗教的感性」の具現化であることを教えます。第二巻の（四）「支配者の神格化」では、最終的に皇帝崇拜に至る支配者の神格化過程を描きつつ、キリストの主権とカエサルの主権という解釈の視点の有用性を指摘します。（五）「哲学諸派とその宗教性」では、とくにス

しながら、後者の類例をギリシア・ローマ世界から広く収集して読者に提供することに特化しています。その慎重かつ均衡のとれた議論は、私たちにたんなる資料集でない、説得性の高い確かな手引を提供しています。読者である私たちは本書をとおして、初期キリスト教を形成した古代人の置かれた宗教的文脈に触れ、それと不可分の政治・社会的な力学を肌で感じつつ、新約聖書のテキストと出会い直す体験へと誘われます。専門知識に富む訳者らと、監訳の小河先生、さらに編集者の方の手により、丁寧な日本語で本書が公刊されたことを、非常に嬉しく思い歓迎します。（あさの・あつひろ 関西学院大学教授）

（A5判・上巻三五四頁／下巻三六〇頁・本体各五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

ヨベルの新刊案内

第三回読売教育賞受賞し
た著者が終活にまとめた

**50年以上前からあった
心のノート**
子どもたちと教師の記録
福田節子

特許庁に商標登録された「心のノート」
が50年のときを経て、今よみがえる！
子どもたちが「思ったこと」「感じたこ
と」「考えたこと」をそのまま表現してこ
る言葉の一つ一つが今もここにあり！

* 四六判・三七六頁・一八〇〇円

メアリー・C・ニール 三ツ本武仁訳

天国からの帰還
ある医師の死、天国、天使、
そして生還をめぐる驚くべき証言

「臨死体験」の体験記。
再び生へと連れ戻された
た著者が経験したものの
とは、信仰の文脈で語ら
れた希少な証言、待望の
邦訳！ * 一五〇〇円

ジョン・マッカーサー 山口衣子訳

聖書に登場する**12人の非凡な女性**たち

聖書の女性たちはどの
ように形づくられたか、
神はあなたに何をのぞ
まれているか

プレゼントに最適！
A5判変型・320頁・
2,500円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 星 (税別)

教会と若者が秘める可能性

〈評者〉李 聖一



「若者と歩む教会の希望」次世代に福音を伝えるために
2018年11月20日 上智大学神学部
原 敬子、角田佑一 編著

二〇一八年度上智大学神学部夏期神学講習会講演集
「若者」と歩む教会の希望
次世代に福音を伝えるために
原 敬子、角田佑一 編著

今、カトリック教会は「若者とともに歩む教会」の姿を打ち出している。教皇フランシスコのメッセージと行動はその姿を明確にするものであり、イエズス会も「若者とともに」を今後十年のミッションの柱のひとつとした。

そのような時にまさに時宜を得た書物が出版された。『二〇一八年度上智大学神学部夏期神学講習会講演集「若者」と歩む教会の希望』である。毎年その年にふさわしいテーマで行われている講習会であるが、この年も最も関心の高いものが選ばれた。その経緯は「まえがき」を参照されたい。本書は、世界各地で教育事業を展開するイエズス会の教育ミッションについて触れ、その歴史と現在、その教育が目指すところを紹介している。川中は、最近盛んに議論されているリーダーシップのあり方を取り上げ、松村はイエズス会教育の過去・現在・未来に触れる。とくに、

「追い込む」教育をしがちな学校現場に一石を投じるものである。また、川中は、'Pueris Instituto est Renovatio Mundi (若者の教育は世界の変革である) ' というイエズス会が教育ミッションに従事する目的に触れつつ、「正義」「愛」「平和」といった普遍的な価値を実現するために「学びほぐす」という言葉で自らの授業実践を紹介している。最後に原は、第二バチカン公会議で主要な役割を果たしたコンガールの神学を紹介する。この公会議以降、「ヒエラルキー (位階制) の教会」から「仕える教会」へと方向転換することをカトリック教会は試みた。その道は六十年以上たっても成し遂げられたとはいえないが、着実にその道歩んでいる。その意味で、コンガールの神学が主張することと、若者とともに歩もうとする教会の姿は、

日本であまり知られていないアメリカでの「クリスト・レイ運動」は、移民を認めない日本にあっても、外国人労働者の子弟の教育を考える上で参考になる。

宗教的な感性は青年期おいてこそ高まると筆者は考えているが、その意味では、精神医学の観点から「霊性」の意味を捉え直し、人間学を展開する濱田の論考は興味深い。また角田は、バーナード・ロナガンの回心論から人間イエスの成長を描く。ロナガンの認識論を援用しながらペルソナ概念の把握に努め、イエスの成長のエピソードを理解するのは専門家でも困難であるが、新しい試みであろう。若者といえば、教育現場で接することがほとんどだが、その点で、塩谷と川本は、その現場での試みから若者が成長していく可能性を示す。塩谷が指摘する「逃れの道」を用意する教育は、ともすれば、生徒を「規律」のもとに

同じであろう。

今日の教育現場において懸念されるのは、若者を「人材」として世に供給することを当然とする風潮である。人は「材」ではない。「人格」である。取り替えることができない、かけがえない存在である。ゆえに、豊かに育てることが必要となり、「ともに」歩むことが大切なのである。これこそ、現代の若者にとって「福音」であろう。このことを忘れてはならない。

「Perfectio est in iuventute (完徳は若さのうちにある) 」とは聖トマス・アクイナスの言葉であるが、「若さ」のうちこそ、大いなる可能性が秘められているのである。

(り・せいいち) 上智学院イエズス会中等教育担当理事
(四六判・二九八頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

ヨベルの新刊案内

医学博士・平安女学院大学名誉教授 **工藤信夫** [著] *全面改訂版

トウルニエを読む!
キリスト教的人間理解の新たな視点を求めて

前者「暴力と人間」でトウルニエの現代的な意義を再び浮彫させた著者が、全面的改訂新版として二〇〇四年に出版した本書を再び世に問う。「人生の四季」「結婚の障害」「生の冒険」を中心に展開される。三部作第一弾!
*四六判・三三三頁・一五〇〇円

再版準備中! **工藤信夫** [著]

暴力と人間
トウルニエとグリーン

井護士・坪井節子氏評
人間の尊厳の回復を示唆する貴重な証言。まさに本書で語られる、無力な貧しい者どうしが共に生きるこそそのものをめざす。
*一六〇〇円

アルノ・グリーン 村橋嘉信訳
従順という心の病

私たちは、「合理的な無私考」によって、抵抗に抵抗し、私思批判と考えている。
46変型判・160頁 800円
再版出来!

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税別)

有神論的世界観の
確立のために！

〈評者〉 市川康則



キリスト教哲学序論
超越論的理性批判
春名純人著

本書は、キリスト教信仰と哲学研究とが徹底して有機的統一において結実している稀有の書である。著者にとって信仰とは単に個人的、内面的な心の動きではなく、国家・社会、全地・全自然界——神の全被造物——を射程に入れるものである。なぜなら、信仰の対象であるキリストは天地の主権者、全被造物の支配者だからである（エフェソ一21）。

著者は元来カント哲学の専門家であり、近・現代におけるカント哲学の意義と制約を厳密に研究して来られた。同時に、牧師の子息として幼少よりキリスト教信仰に養われて来られた。特に、オランダのネオ・カルヴィニズムの大成者、A・カイパーと、その批判的継承者、H・ドイヴェールトの思想に感化され、自らの哲学研究に応用して来られた。本書は長年にわたる研究・教育活動の一大結晶であり、

特に主からの召命と確信する学問的営みにおけるキリストへの信従の証でもある（「あとがき」、四七五頁参照）。

本書は、第一部「聖書と哲学」、第二部「ネオ・カルヴィニズムの伝統——『原理』と『展開』」、および第三部「キリスト教超越論哲学——ヘルマン・ドイヴェールトの『法理念哲学』」の三部から成っている。第一部では、特に信仰の個人化・内面化に対する批判と相俟って、キリストの救済が全被造物世界の救済とその終末的完成のためにこそあることが力説され、キリスト者のこの世における使命（文化命令）が宣教命令と連動する形で明示される。そして、哲学（学問）が決して宗教的中立・無前提ではあり得ないこと——それが無自覚に前提されている——が暴露される。第二部では、墮落と再生の霊的対立に基づく非キリスト者とキリスト者の対立の原理が、学問を含む人間のすべて

の営みに及んでいることが、しかし同時に、墮落後もなお人類と世界を保持する神の恩恵のゆえに、非キリスト者の文化的営みとその成果が可能であることが両者の関係の原理として説かれている。

第三部では、カントが取り組んだ、真の理論的認識の成立のための普遍妥当条件である超越論的理性批判が取り上げられ、カントの画期的洞察にも拘らず、その人本主義的前提のため十分な意味での超越論的批判ができず、理論的認識と道徳的实践が二元化され、後代に大きく影響したことが批判的に指摘される。そして、ドイヴェールトによって初めて十分な意味での超越論的哲学が確立したことが明示される。超越論的とは超絶的と内在的の両方に相対

する概念であるが、彼は聖書的人間観に基づき、理論（論理化）に先立つ、人間存在の宗教的中心たる心に注目し、心が神を志向し、それに規定されるときにのみ、理論的認識を含む被造物の次元の営みを正視し、超越論的態度が可能となることを洞察した。ドイヴェールトはカイパーの対立の原理と共通恩恵論を批判的に継承し、キリスト教超越論哲学を原理的に確立した。これを明示している本書は正にキリスト教有神論哲学の書である。

（いちかわ・やすのり〓日本キリスト改革派千城台教会牧師、神戸改革派神学校校長）

（A5判・五〇四頁・本体六五〇〇円＋税・教文館）



新刊
死生学年報
2019

死生観と看取り

東洋英和女学院大学
死生学研究編
●A5判並製 本体2500円＋税

『聖書』が「看取り」について
語ること
佐々木 啓

●
イスラームにおける死
鎌田 繁

●
ホロコーストを語ること
丸山空大

●
メソポタミアのマクルー儀礼
にみる死と再生
細田 あや子

●
賀川豊彦とハンセン病文芸
松岡秀明

●
メソポタミアの「冥福」観
渡辺和子

●
高齢多死社会の
看取り現場からの報告
奥野滋子

●
臨床仏教師の役割
神 仁

●
天理教の死生観と看取り
白木原 嘉彦

●
他、5篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

正統と異端のせめぎ合いの
貴重な現場証言

〈評者〉 山本 巍



キリスト教教父著作集19
ヒッポリュトス 全異端反駁
ヒッポリュトス著、大貫 隆訳

ヒッポリュトスは、主に紀元後三世前半に活躍したキリスト教著述家であり、かつローマ司教座を争った人物である。グノーシス主義が広く浸透していた古代世界において、正統信仰の確立を模索していた初期キリスト教成立時代の現場状況について貴重な証言の書である。その歴史に関心をもつ者にも、また信仰そのものの「異端と正統」について理解を求める者にも新鮮な読書体験となるであろう。

訳者であるグノーシス研究の権威、大貫隆氏の労を多ししたい。訳文は明瞭で、適宜補足の言葉が挿入されて複雑な原典が分かりやすい。

本書の特色は、第一に、当時のキリスト教世界に現れた異端および異端者個人を細大漏らさず収集して、手厳しい論駁を加えて徹底していることである。その膨大な量と徹底性で際立っている。ヒッポリュトスに「異端狩り」の趣

味でもあるのか、と思いたくもなる。しかしどうあってもヒッポリュトスは自らを正統信仰として守りたかったのだろうが、その動因は何であつたらうか。

訳者によれば、それがローマ司教座をめぐるカリストスとの激しい争いである。司教の座にあつて「公同（カトリケー）の教会」を主唱していたカリストスを、逆に「分派」「異端」として論駁することが本書の主目的だったという。ヒッポリュトスの激越とも見えるほど「あまりに感情的な発言」「一連の罵詈雑言」の背後に、訳者はヒッポリュトスの性格上の「倫理的厳格主義」とともに「孤独」を読み取っている。その孤影濃いヒッポリュトスが頼つたのが知識である。同時に知識が飾り物としての知識紛いと紙一重だったこともよく知っていた。

哲学に対して開かれた精神であることと、大量のギリシ

ア哲学からの引用・紹介があることが第二の特色である。ヒッポリュトスの師匠のエイレナイオスの『異端反駁』に対して、ヒッポリュトスが自らの作品に『全異端反駁』と「全」を入れた所以である、と訳者は記している。本書は十分信頼できる古代ギリシア哲学の原典を多く保存している。

それが信頼できたというのは、あれほど多弁なヒッポリュトスが自分の解釈などで色づけしないでギリシア哲学者から多くの原文をそのまま抜き書きしたから、という面がある。それが「盗用・盗作」の誹りを自ら招く危険を冒しても意図したとすれば、ギリシア哲学を参照枠にして読者が自分自身で異端論駁の当否を言葉によって判定せよ、と求めているように見える。

(A5判・五八二頁・本体九二〇〇円＋税・教文館)

(やまもと・たかし 東京大学名誉教授)

この膨大な「異端反駁」を読んで、なぜか親鸞の『歎異抄』を思い浮かべた。他人の誤謬を論駁することは易しい（姦淫の女に石打ちを律法通り要求したのは普通の人である）。しかし自分自身の中の異端（罪悪深重）を認めることは難しい。凄まじいまでの論争に立つ「厳格主義者」ヒッポリュトスの孤独が真実とすれば、そこに親鸞の「異端の歎き」に似た心境を想像することもまた可能であろう。「飾り気のない真理の素朴さをこそ畏怖すべき」と書いている。ヒッポリュトスの過剰な言葉の氾濫の中に、幼子のような「素朴な」真理を我々自身が見出すべきであろう。

教文館の本
http://shop-kyobunkwan.com/

好評発売中

世界が絶賛！ 巨匠手塚の遺作アニメ ● 本体28,500円

手塚治虫の旧約聖書物語

「豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック」

天地創造からイエスの誕生まで、壮大な聖書の世界を描いた全26話。世界が絶賛した聖書アニメの最高峰が、手塚治虫生誕90周年を記念して待望の復活！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 / 内容見本・図書目録 ● 価格は税抜

旅人であり 仮住まいの身なのでから

〈評者〉 山北宣久



断想と追想と

なみだ流したその後
断想と追想と
上林順一郎著

上林順一郎 YOSHIOKAWA JUNICHIRO

「上林順一郎」この敬愛すべき牧師を四文字熟語で評すれば「豪放来楽^{ゴウポウライラク}」が相応しいと思っている。精神が凶太く、楽しい事がたくさん周りにやって来る様子に満ちているからだ。但しこの造語は残念ながら認知されずに今日に至っている。

日本基督教団早稲田、吾妻、松山、江古田の各教会を中心に牧会伝道を縦横無尽に展開して五〇年余。この度隠退牧師（本人は「教会の隠居」と命名）になった著者の「断想と追想」集である。既に多くの説教集、随筆やエッセイ集を出版し、いずれも好評を博しているが、その集大成が本書。

三部から成る。第一部「旅の断想」。十五篇の説教が宝石箱の如く散りばめられている。新鮮な註解、明解な切り口、惹きつけられる迫力とテンポの良い展開、社会情勢や

第二部は「旅のつれづれ」。著者本人に紹介してもらおう。「最近考えたり書いたりした気楽な短い文書です。案外本音が出ています」。

第三部は「旅の終わり近く」。「病中書簡、病床雑記」は二カ月の入院生活から教会宛の書簡で、牧師の生身が曝され感動。最後は「来た道、行く旅」。教団成立への決定的転換点となった教会合同宣言が発表された一九四〇年十月一七日生まれの著者は、「荒野の四〇年」の最中、教団事務所に隣接する早稲田教会を牧し、「教団新報」の主筆であっただけに、教団の申し子的存在として教団史に鋭い洞察を加えている。

本書のキーワードは「旅」である。ゆえに旅についての叙述も深い。「地にては旅人、また寓れる者」と口誦み、「わ

キリスト新聞 アーカイブス 全5巻



1946年の創刊号から昭和の終わりまで。激動の時代を記録した超貴重な一級資料を当時のままデジタル化。フリーワード検索など、検索機能も充実。敗戦直後のキリスト教界がありありと甦る。

「時代の先駆を成す紙面、
鈴木範久（立教大学名誉教授）

推薦

戦争が終わって1年も経たない1946年4月、賀川豊彦により『キリスト新聞』が創刊された。特定の教派を超えた本紙の内容は、時代の先駆を成している。記事の中では、とりわけ天皇制と共産主義に対する関心の強さが目をひく。代表的信徒の戦中と戦後の言動の変化をはじめ、現代のキリスト教にとって注意すべき記事があまりにも多い。

価格
100,000円
+税/巻
特設サイト
はこちら
<https://www.kirishin-arch.com/>



キリスト新聞社 since 1946
〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL. 03-5579-2432
E-Mail. support@kirishin.com

が友なる死よ」と呼びかけた聖フランシスコの姿に重なる面を垣間見たりもする。また「愛する人たち、あなたがたに勧めます。いわば旅人であり、仮住まいの身なのでから……」と言って勧めていったペトロ二章十一節以下に連なる牧会余滴の感もする。

旅するパウロを「足の人」と評したくだりで次のような話を挿入している（三九頁）。「農業の仕事は毎日畑の作物に足音を聞かせに行くことだ。足音を聞かせることを怠ると作物は成長しない」。その言葉を聞いて伝道も同じだと思つた。困難な農村伝道に従事した牧師に共鳴している著者。こうした感性の持ち主が発している好著をどうぞ！

（やまきた・のぶひさ）日本キリスト教団出版局理事長
（四六判・二八四頁・本体一五〇〇円＋税・キリスト新聞社）

バルトの問いを通して 教会の本質と向き合う

〈評者〉 中道基夫

カール・バルトと
エキュメニズム

一つなる教会への途

佐藤司郎著



福音館書店

カール・バルトとエキュメニズム
一つなる教会への途
佐藤司郎著

エキュメニカル運動の源流とも言えるエジンバラ世界宣
教会議が開催されたのが一九一〇年。第一次世界大戦が
一九一四年、第二次世界大戦が一九三九年に勃発した。ド
イツで告白教会が結成され、バルメン宣言を採択したのが
一九三四年。ドイツ福音主義教会がシュトゥットガルト罪
責告白を告白したのが一九四五年、世界教会協議会の第一
回大会がアムステルダムで開催されたのが一九四八年。第
二次世界大戦後の宣教に新しい刺激を与えたミッシオ・デ
イが提唱されたヴィリンゲン宣教会議が一九五二年、そし
て第二バチカン公会議が一九六二年から一九六五年に開催
された。これらのキリスト教が直面した危機の時代を乗り
越えようとしたエキュメニカルな出来事の一つ一つに関わ
り、大きな影響を与えたのが、一九一〇年にジュネーブで
牧師としての務めを始めたカール・バルトであった。この

バルトとエキュメニズムとの関係は日本においてはそれ
ほど注目されることはなかった。佐藤氏が、バルトに関し
て広い見識と深い理解をもって、エキュメニカル運動に関
わる内容の手紙、雑誌への投稿から講演録まで綿密にバル
トの資料にあたり、分析し、現代に再構成してくださった
ことは感謝に堪えない。しかし、この本がこれまで注目さ
れなかったニッチなテーマを扱っているというわけではな
く、このテーマこそ、バルト神学、特にバルトの教会論の
具体的な展開として重要なテーマであり、佐藤氏が強調し、
佐藤氏自身が追求しようとしている「バルトでどのような
教会を形成し伝道するか」(二五九頁)という今日的なテー
マに関わるものである。佐藤氏は、この本において単に七
〇八十年ほど前のバルトを歴史的に再構成しているのでは

本は、これらのエキュメニカル運動の基盤とも言える出来
事とバルトとの関係を明解に描いてくれている。

バルトがエキュメニカル運動に関わる中で貫いた主張が
ある。それが、教会の真の一致である。それは派閥や規則
に対する忠誠による一致、また合理的な制度的協力体制の
ことではない。そのような傾向に対して、バルトは真つ向
から反対している。「バルトによれば教会の多様性は『不
可能事』であり、『罪』であり、『困窮』そのもの」(五六頁)
であるが、それは形態や形式における多様性に対する批判
ではなく、「イエス・キリストがまさに教会の一性である」
(五四頁)、イエス・キリストという名による一致という教
会として絶対に譲れない根本を問うものである。バルトは
この根本においてのみエキュメニカル運動の意義を認めてお
り、組織的・制度的・合理的一致に意味を見出していない。

なく、まさにバルトを今日に蘇らせてくれることによって、
今日の教会の課題と格闘している。

この本を読んで痛感するのは、バルトが取り組み、同時
代のエキュメニカル運動に携わっていた人が直面していた課
題に、現在のわたしたちがいま向き合っているという事実
である。現代の宗教多元主義的社会、グローバル化した世
界の中で、多様性が求められている。その中で、バルトの
時代以上に教会の一致とは何か、教会とは何か、なぜ教会
は宣教するのかというということが問われている。しかも、
排他的にならず、内向的にならず。教会で一章ずつ丁寧に
バルトとそして佐藤氏と対話しつつ読んで欲しい本である。

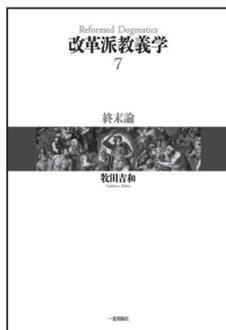
(なかみち・もとお 関西学院大学神学部教授)
(A5判・二七〇頁・本体三五〇〇円+税・新教出版社)



終末論

〈改革派教義学〉第7巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



神中心的包括的終末論を問う。
すべての神学的課題は
終末論へと流れ込む。
終末論において
その神学の本質が姿を現す。
改革派神学は神中心的包括的
終末論を問うのである。

A5判・上製・函入
定価 [本体 4,500 + 税] 円
ISBN978-4-86325-052-9



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

現代世界と聖書が繋がる
面白さへと読者を招く

〈評者〉 小友 聡



命のファイル

ロボット・テロ・不条理・来世と旧約聖書
佐々木哲夫著

わくわくする本が刊行されました。佐々木哲夫先生の『命のファイル』という本です。現代世界が今、まさに直面している喫緊の問題に鋭く切り込み、とりわけ旧約聖書の視点からこれに応答し、考察を加える、というユニークな面白い本です。

著者・佐々木哲夫先生は東北学院の前院長であり、東北学院大学名誉教授であり、日本基督教団の牧師。教育者として、また旧約学者として著名な方です。この本はもちろん学術的なキリスト教書ですが、問題の取り上げ方が現代的で鋭いのは、著者がかつとも精密機械工学の研究者であつたからです！ いきなり鉄腕アトムや鉄人28号の話から始まり、ぐいぐい引き込まれます。ロボットや現代の先端技術について、その本質と問題点をえぐり出し、旧約聖書との繋がり、さらにキリスト教の信仰へと道案内をして

くれます。

目次を追って本書の内容を紹介しましょう。

第1章は「ロボットと命」。これには「アイボからフランクエンシュタインへ」という副題がついています。現代の最先端のロボット開発が今や生命の創造にまで踏み込もうとしている深刻な問題が提起され、旧約聖書の創造物語と対論します。

第2章は「戦禍と命」。副題は「テロからグローバルズムへ」です。無差別テロとの戦いという現代が直面する「戦争」が検証され、旧約聖書の聖戦に目を向け、平和の構築についてじっくり考えます。

第3章「厄難と命」は、「ヨブとエリフの不条理克服」という副題。東日本大震災を見つめ、現代の不条理について問います。旧約聖書のヨブ記にあるエリフの弁論から、

不条理をどう考えるかを深く掘り下げます。

第4章は「死なない命」。副題は「来世をかいま見る」です。ターミナルケアや臨死体験というホットな話題から、死を超える生命について問い、聖書が語る永遠の命について考えます。

以上、いずれも現代世界が直面している命の問題が一貫して追究されます。この「命」が現代の諸問題の本質にあるだけでなく、旧約聖書の中心問題であることを著者は丁寧に教えてくれます。『命のファイル』という書名の由来がよくわかります。なお、本書の最終章では、実践的な「説教演習」も取り上げられています。一言付け加えますが、本書では著者は読者を聖書研究に招きはしても、聖書に正解があるのだという短絡的な解説をしません。むしろ、読者に自分で考えるよう促します。その著者の執筆姿勢に魅力を感じます。

本書から評者が教わり、考えさせられたことが幾つもあります。一つは、現代の対立構造がキリスト教世界対イス

ラム世界ではなく、閉じられた世界と開かれた世界に分かれるという著者の指摘です。これは塩野七生さんの言葉の引用でもありますが、著者自身の考え方がこの「開かれた世界」にあつて、思考停止し「閉じた方向」に向かつてしまふ私たちに自己吟味を強く促しているように思わせられました。

この本は単なる聖書研究ではありません。現代世界と聖書が繋がる面白さを教えてくれる啓蒙書です。著者が長い年月を若い学生たちへの教育に捧げてきた、その若い人たちへの招きが行間から感じ取れます。1%のキリスト者でなく、聖書にもキリスト書にもなじみがない99%の人たちに、とりわけ若い人たちになんとかして聖書の福音を伝えたい。その情熱が伝わってくる本です。

(おとも・さとし) 東京神学大学教授、日本基督教団中村町教会
牧師)

(A5判・二〇六頁・本体三〇〇〇円+税・教文館)

初めて得心できる
一つの解を得られた!

〈評者〉西原廉太



笑いと癒しの神学
長谷川正昭著

「笑い」と「神学」。一見、親和性のないかのように思える二項を切り結ぼうとする作業自体はそう珍しいものではない。本書においても言及される、宮田光雄の『キリスト教と笑い』や、リチャード・コートが書いた『笑いの神学』なども秀逸な論考である。2016年には、日本キリスト教文学会が「キリスト教と(笑い)」を総主題に大会を開催し、聖書における「笑い」の特質は何かをめぐって、熱心な議論が交わされた。そう思いながら読み進める読者は、あたかもナルニア国物語の兄妹のごとくに、「笑い」という衣装タンスの奥に、神学、哲学、心理学、文学を縦横無尽に飛翔する(知)の世界へと引き込まれていくことになる。著者は、「笑い」を「認識の破れと自我の解体」(二五頁)と定義する。その前提として、意識の自己言及性(自意識)の問題が論じられなければならない。「イエスの自意識」と

ている」と評している通り、その試みは見事に成功している。一方で、私たちは著者の本書執筆動機にしっかりと耳を傾けたい。本書に一貫しているのは、現代の教養主義の没落と情報化社会の到来を前にして、「言葉の権威の喪失の時代」(一〇六頁)が到来したことへの危機意識である。「教会が拠り所としてきた言葉の権威が失われ、生きる力としての生命を持ちえなくなってしまう」(二六一頁)状況の中にあつて、「見失われた神の働きと存在感を現代的な文脈のなかで再発見」(二九二頁)することの緊急性である。また、「仏教にかぎらず、日本のクリスチャンが自国の文化に、関心も知識もないということは寒心に堪えない」(二〇九頁)と、未だ西欧キリスト教にしか目を向けていない日本の教会、神学に対して痛烈な批判を投げかける。

は何であったかが語られる。ベルクソンの「粹」、バタイユの「非知」といった概念を用いながら、認識の破れをもたらす笑いの体験には、「自我の崩壊と解体につながる何らかの出来事が起こっている」という事実を想定することができ(一九五頁)という一つの結論はきわめて説得的である。このように紹介するといかにも難解な神学的思弁のみで記述されているようだが、著者が「あとがき」で、「私の言葉は読者に届いているかという懸念がいつも脳裏を去ることはなかった」(四一四頁)と告白しているように、一般読者に通用する言葉が丁寧に紡ぎ出されている。著者自身が、「言ってみれば何でもありの総合的な知のエンターテイメント」(四二二頁)となったと総括しているが、佐藤優も「キリスト教神学は、信者以外にも通じる普通の言葉で語ることが重要である。この課題に長谷川氏は見事に答え

とところで、実は評者が最も瞠目させられたのは、小林康夫の(イエスの十字架上で)の絶望とは、イエスが自らをあつたの失墜したサタンであると認識した結果」であるとした論への応答(第六章「悪の問題」)であった。評者も長年、この小林の説には棘とげのような拘りこもりを抱き続けてきたが、初めて得心できる一つの解を得られたように思う。

最後に、著者は、評者と同じ日本聖公会の司祭であるが、日本聖公会にこのような重厚かつ自由闊達に思索を繰り広げる一級の神学思想家が与えられていることを誇りに思う。一般の読者、キリスト者はもちろんであるが、ことに日本聖公会の信徒・教役者には必読の書であることは言を俟たない。(にしはら・れんた)立教学院副院長・立教大学文学部長(四六判・四四八頁・本体二八〇〇円＋税・ヨベル)

日本語で書き下ろす聖書注解、最新刊

VITJ 旧約聖書注解
列王記上 1~11章
山我哲雄

ソロモンの治世を記す聖書箇所を、申命記史書の泰斗である著者が、旧約のみならず文化芸術に触れつつ解説する。
A5判・458頁・5184円

コヘレトの言葉を読む
「生きよ」と呼びかける書
小友 聡

「コヘレトの言葉」を鮮やかに読み解き、「今の生を徹底して生きよ」という中心主題を明らかにする。 四六判・136頁・1,512円

TOMOセレクト
かんたん! たのしい!
CSわいわいアイデア集
『教師の友』編集部 編

『教師の友』掲載のすぐ使える活動アイデアを1冊にまとめた傑作選。 B5判・96頁・2,160円

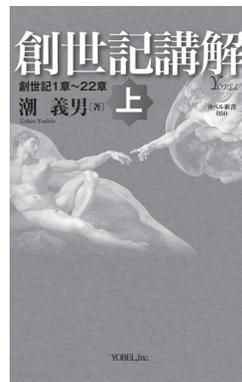
井上洋治著作選集 別巻 詩の朗読CD付
井上洋治全詩集
イエスの見た青空が見たい
山根道公 編・解題 若松英輔 解説
井上神父の信仰の結実とも言える、「南無アッパ」の祈りの詩集。
A5判・252頁・2,700円

[増補改訂版] 魯恩碩
旧約文書の成立背景を問う
共存を求めるユダヤ共同体
旧約聖書を生んだ捕囚後ユダヤ共同体の実態を描いた力作を増補改訂。 A5判・418頁・4,536円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

「創世記」の使信を学び・ 深める十分な内容を凝縮!

〈評者〉古賀 博



創世記講解 上
創世記1章～22章
潮 義男著

この説教集は、著者が二〇一四年より仕えている日本基督教団仙台青葉荘教会にて、月一回語った「創世記」の連続講解説教をまとめたものである。今回発行された上巻には、「創世記」1章の「天地創造」から22章のイサクの奉献（「主の山に備えあり」）までの解き明かした説教、計31編が収められている。

ホーリネス信仰に立ち、長く研鑽を積んだ神学的な思索と牧会の経験を存分に活かして語られた説教の数々。自分としての聖書の読みも大切にしている著者は、文学や芸術への深い造詣、それらを通じて培ってきた豊かな感性と教養を聖書の読みと解き明かしに存分に活かしている。さまざまな要素が、信仰育成と教会形成への祈りで統合されて全編を貫いており、遣わされた教会を大切な足場とし、会員と聖書の使信を分かち合おうとの願いを素直に感じられる。

創造の主なる神の業への賛美と、それに応えていく人間の信仰的営みを、この説教集が語り継ごうとしていることを表現したデザインだろう。こうした意匠も、全体の味わいをさらに深くするために良き効果を發揮している。

「人間の誕生」（1章26～31節）では、内容に関連してゴーギャンの壁画がイラストとして置かれている。この一編は、この壁画を実際に観賞したことに始まり、タヒチでゴーギャンが陥った極度の貧困と愛娘との死別の体験に言及される。深い苦悩を抱えつつ描いた大作「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか」、この表題に画家が込めた問いを引き受け、東日本大震災の体験を重ね、加えてバビロン捕囚の経験を踏まえて編まれていった物語の成立状況がさらに重ねられ、全ての

るところが、この説教集の大きな特徴と言えるだろう。著者は、先に同じヨベルより上下巻で大著『神の国の奥義 説教 マタイによる福音書』を上梓しているが、今回は新書だということもあり、前著に比して小ぶりな一冊となっているが、「創世記」の使信を学び・深めるのに十分な内容が凝縮されている。

長尾優氏の装丁やデザインも美しい。表紙にはミケランジェロの「アダムの創造」（ヴァチカンにはシステイナ礼拝堂天井に描かれたフレスコ画）が青色のマスクをかけたようなアレンジで示されており、その落ち着いた色調が読者を和ませる。神がアダムのいのちを吹き込もうと右手を伸ばし、これに応答してアダムも左手を伸ばしている「神の右手とアダムの左手」がこの絵の特徴だが、全ページの右肩に神の右手が、左肩にアダムの左手が表示されている。

問いの帰着点として創造主である神を強く証する構造となっている。こうした極めて重層的な読みが、著者の真骨頂と言えるのではないだろうか。

最後に二度に亘って取り上げられているイサク奉献に関する説教も、東日本震災をしっかりと踏まえて展開されており、感動新たに何度も読み直している。

私事だが、著者は学部は違うが同窓の先輩。「変人の巣窟」、第一文学部ロシア文学専修在籍で、しかも中退という強者。上京時にはふらっと立ち寄ってくださり、文学談義などを交わすことを許され、感謝。今度の機会には、この説教集についてじっくり語り合いつつ一献傾けたい。

（こが・ひろし）日本基督教団早稲田教会牧師
（新書判・三〇四頁・本体二二〇〇円＋税・ヨベル）



キリスト教書総目録 2019年版

心がいえる本との出会い 巻頭エッセイ 柳美里氏 水島治郎氏

内容

総記年鑑 辞(事)典 図説年表/全集(著作集) 叢書講座/聖書 聖書学/神学/宗教学/思想/倫理/伝記/ライオン/信仰入門書/人生論/説教集/文学小説/評論/詩/劇/音楽/美術/建築/教育/保育/心理/社会福祉/児童/絵本/讃美歌/式文/DVD/CD/カセット/ビデオ/キリスト教関連雑誌/新聞/書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送品手数料200円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

座談会

『聖書 聖書協会共同訳』

を翻訳して

ご出席者（五十音順）

阿部 包

藤女子大学特任教授・名誉教授、
同大学キリスト教文化研究所長、
新約編集委員会翻訳者兼編集委員

飯 謙

神戸女学院大学教授・同院長
詩書・預言書編集委員会翻訳者兼
編集委員

春日いづみ

歌人、日本歌人クラブ中央幹事、
現代歌人協会会員、詩書・預言書
編集委員会翻訳者兼編集委員

吉田 新

東北学院大学文学部総合人文学科
准教授、
続編編集委員会翻訳者兼編集委員

司会

島先克臣

日本聖書協会編集部主事

翻訳作業に携わって

島先 まず、作業とか、会議とか、ご自分の翻訳したプロセスでも、いちばんの思い出になっているものを一言。

阿部 新約の部分で、スカイプ導入になったでしょう。それで、わたしの場合はパートナーが東京の芳賀繁浩先生じゃないですか。スカイプをつないで、パラテキストで毎週金曜日の夜九時から一コマずつ、ずっとやっただんです。それがいちばん思い出に残っていますね。彼は、ギリシア語もできるから、日本語担当ではないような突っ込んだ議論もいろいろできて…。それからやはり、合宿が楽しかったですね。

吉田 今回、スコポス理論という新しい翻訳理論を採用したことは、成功であったと個人的には思います。具体的な

尽くしたいと思いましたが、

思い出は沢山ありますが、原語の先生方からヘブライ語の文法や釈義を伺ったことは貴重な体験でした。日本語についての意見も真摯に受け止めてくださり、大いなるものに向かつて共同作業をしている感覚でした。一言一句にこだわりましたが、編集会議のときに接続詞一語で一時間かかったところがあるんですよ。サタンが主を唆すところ（ヨブ記二章五節）。

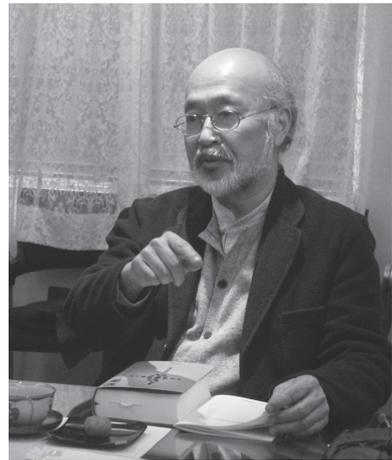
島先 ああ、五節冒頭に「しかし」をつけるかどうかという…。

春日 そうそう「しかし」、出来上がったものを見ると接続詞はないのです。「さあ」「だが」「しかし」など相応しい言葉を探しましたが、議論の末、別訳に載せようということでもなくなりました。今読んでみると自然に読めるけれど、十数人が頭を突き合わせ一時間話し合った結果なのです。すべての箇所にもこのようなことがあって、翻訳者委員会にしても編集委員会にしても、おろそかではない熱い時間を過ごしたと思います。

飯 「翻訳をゼロからやる」ということをどう解釈するか。わたしは当初、新共同訳と全く違う訳語を選ばないといけないと思ひ込んだのですね。けれども、パラテキストを見ることがよって、先輩方のご苦労を感じ取り、それをある程度尊重して引き継ぐ必要性、その線上に立とうとする、歴史に参与する思いを学ばせていただいたと考えています。聖書学に携わる人には時として、可能性を追求するあまり奇抜と思える訳を試み、個性を際立たせようとする傾向がある。自分のことですよ。しかしこの翻訳事業を通して、歴史の中に立つというスタンスをよく理解させられたと感謝しています。



2018年12月7日、日本聖書協会にて



阿部 包氏

それから、合宿はたいへん印象深く思い出されます。一緒に翻訳する人と人格的な相互理解の中で進めていくことができ

第一コリント書の一章の議論をしていたときに、さてこれはカトリックのミサで問題な



飯 謙氏

た。毎朝の礼拝の時間でも、その方の人となりとか、個人史を知ることが許され、ああ、こういう思いで聖書に向かっ
ておられるのかと。聖書への理解を深める大切な時間にも
なりました。単に仲間どうしでやったという意味ではなく
て、適度な緊張関係もありました。互いに相互理解に努め
ようとすると良質な共同体の中で生み出された聖書だとい
うことを、これを読まれる皆さんにもお伝えしたいと思
います。

吉田 わたしは「聖書協会共同訳」は、「共同訳」とい
うところがいちばん重要で、この聖書翻訳はいわゆる教会
一致運動の一つの結実だと思っ
ていて、ですから「共同」という文字はやっぱり外してはいけなかつたとい
うふうに個人的に思っている。非常に印象深かつたのは、

いだろうかという話し合いがあつたんですね。「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、言われました。『これは、あなたがたのための私の体である。』（一コリ一・二三、二四）という。プロテスタントにとつてもカトリックにとつても重要なテキストですが、この訳文を議論したときに、じゃあ、これで大丈夫かという話し合いをしたときに、神父さんにミサの所作をしてもらい、確かめてもらおうと言って、後ろで旧約かなにか訳していた神父さんにやつてもらつたんですよ。これでいいかどうか。そういうことは普段では議論できない。まさにエキュメニズムだなどとき感じました。やはり合宿というのがすごく濃密な時間だつた。朝の祈りから始まり、翻訳に取り組み、一緒にご飯を食べて、

寝て、また朝の祈りから始まる。あれは聖書翻訳というよりはむしろやはり教会一致運動の一つの重要な交わりだつた。それが各人に持ち帰られていくという感想を持ちました。

困難をどう乗り越えたか

島先 今度はすこし話題を変えまして、困難をどういうふうに乗り越えたか、大変だつたところに焦点を当てていきたいと思うんですけども。

阿部 やつぱりピステイス問題ですよ。かなり遅くまで続いた議論だつたと思う。初めの頃は、新約部会、訳語検討会とか、そういうレベルでは「信実」というのが圧倒的多数なんです。その頃わたしは「信仰」で行くべきだ

という言い方をしていた。最終的に「真実」ということにした。ただ、そうすると、ロマ書で、どこまでを「真実」、どこからを

「信仰」と訳さなきゃならないという問題が起きるんです。今回、日本語だけで読むとわりとすんなり読めちゃう。(笑)この部分については非常に長い議論をしたけれども、もしかすると一般読者からはそんなに意見はないのかもしれない。ただ、「イエス・キリストの真実」ってどんな意味？というのにはなかなか分からないかもしれないですね。

島先 これは牧師先生方がやつぱりロマ書全体の神学から釈義していくしかないですよ。

阿部 わたしは基本的に、イエス・キリストのピステイスが人を義とする尺度だと思ふ。わたしたちの信仰はわたしたちを義としないんですよ。

島先 なるほど。

阿部 ここでたぶん、信仰理解が分かれるところだと思ふ。

島先 吉田先生、いかがでしょう。

吉田 続編ですね。続編の担当を任せられたときに、これは大変なことを引き受けてしまったと思つて、相当自分の身を削ることになると覚悟しました。続編のテキストは本当に難しく、新共同訳の続編の翻訳作業は偉大だつたということが、まず、今回の作業の中で分かりました。また、現在、世界的に続編の研究が相当進んでいるんですね。これらの研究とやはり同じレベルで立ち向かつていく翻訳は必



春日いづみ氏



吉田 新氏

要になると思いました。続編の翻訳者、及び日本語担当者の中でプロテスタントは半分近くいらっしゃいますよね。そういう意味では、とても

とを心掛けました。目に触れた印象も、言葉のひびきも大切ですから。翻訳の最終段階に近づくにしたがって、書全体を通して読むようにしました。そのためには誰にも邪魔されない時間が必要で、合宿はとても有難かったです。

聖書協会共同訳への期待

もエキキュメニカルな作業だったと思います。日本

上、続編の翻訳はとても大きな業績だったと思います。続編を通して新約を見ないといけないことを、本当に強く思いました。旧約と新約をつなぐ接続点がヘレニズム時代のユダヤ教であって、そこからイエスが生まれ、そしてパウロが生まれていったという感じになっていますよね。

島先 それでは最後に、「ここが押し」と「期待すること」を一言ずつ。
阿部 脚注が付いたこと。引照の情報だけではなく、直訳だとか、異読もあって、必要などころでは分かる。読むときに便利だし、長すぎないのがいい。

春日 私は詩文を担当しました。特に詩編はカトリックではミサや教会の祈り（聖務日課）で毎日歌い、または唱えるので、リズムやひびきが自然で、心にすっと入ってくるようにと心掛けました。聖書は縦書きですので、パラテキストを縦書きにプリントアウトをして、声に出して読むこと

吉田 わたしは一九七八年生まれで、共同訳聖書が出版された年と同じです。ですから、わたしにとって聖書は新共同訳なんです。新しく生まれてくる子どもにとって、聖書協会共同訳が彼、彼女らの聖書になります。つまり、この聖書は次のジェネレーションの聖書になります。聖書を次のジェネレーションに渡すという、大きな仕事に携われたと思えました。新しく生まれてくる子どもにとっての聖書はこれなんだという…。

春日 私は詩文を担当しました。特に詩編はカトリックではミサや教会の祈り（聖務日課）で毎日歌い、または唱えるので、リズムやひびきが自然で、心にすっと入ってくるようにと心掛けました。聖書は縦書きですので、パラテキストを縦書きにプリントアウトをして、声に出して読むこと

春日 絞れませんが、箴言は寸鉄詩のように歯切れよくなっていると思います。コヘレトの冒頭も「空しい」が「空

になりましてけれど、意味が限定されず、解釈が広がります。それから夫婦の「楽しみ」というのが「人生を見つめよ」（九・九）に変わりましたね。

島先 あれは今までの、外国の訳にもない、全く新しい訳なんです。

春日 コヘレト三章の「生まれるに時があり、死ぬに時がある」（コヘ三・二）というところもリズムが揃い、暗唱などしやすくなったのではないのでしょうか。情景、状況が読むだけで、聞くだけで目に浮かぶ箇所が増えたように思います。この翻訳の時間を多くの祈りが支えてくれた。合宿中も修道院のシスター方が祈ってくださいました。そして聖霊が確かに働いていたと感じています。

島先 シュナイダー神父様が、「聖書翻訳は神の業です。祈りによって進めるものです」というメッセージを残してください。

くださっています。

飯 新共同訳はすこし説

明的な表現が多かったのに対して、今回はやはり簡明になったと思います。

言い切りとか、リズムのよさ。説明的でないぶん、

読者自身が解釈する余地が広がった点、これは祈りを導くものとなります。聖書は、元来は巻物で部分的な朗読が中心でしたが、やがて製本されて通読のための書となりました。テキストを思い巡らせる空間が広がった。わたしは詩文をやらせてもらいましたが、ここは一息に読んでいくという、段落を示唆する工夫もできたのかなと。一つのユニットを区切りで読んで、その中の最初の言葉のつながりや差異を、比べるなどして、聖書との新たな出会いをしていただけではないかなと期待しております。

島先 今日はありがとうございました。

※1 翻訳者が用いた聖書翻訳支援ソフト

※2 スコボス（目的・対象）を予め設定し、それに応じて適切な翻訳方針を決定していることとする考え方

※3 ビステイス・クリストウは「キリストの真実」とも

訳し得るかという問題

本稿は日本聖書協会発行『ソア』46号（二〇一九年四月）より転載したものです。



司会、島先

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@afoc.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区錦2-2 様ケリスセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.bigobee.jp	sksch@mva.bigobee.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.bigobee.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区樋口字翁原777 沖縄キリスト教館	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

四六判・304頁・本体2400円

江戸時代中期、日本に潜入して捕らえられ、江戸の切支丹屋敷で新井白石の訊問を受けた宣教師シドティの、イタリアでの研究を元に日本語原資料から補完した初の学術的伝記。

マリオ・トルチヴィア著
北代美和子／筒井砂訳／高祖敏明監訳

——使命に殉じた禁教下最後の宣教師

ジョヴァンニ・バッティスタ・シドティ

■教文館

A5判・予価3200円

一五五九年に創設されたジュネーヴ大学で、カルヴァンが週三日、隔週で行った講義の記録。ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行うスタイル。注解書とは趣を異にするライブ感溢れたカルヴァンの講義の様子を生き活きと伝える。

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳
アモス書講義

■新教出版社

四六判・154頁・本体1500円

カトリック・プロテスタントの献身者33名の召命の証しを収録。牧師、司祭、プラーザー・シスターはどのような神の声を聞き、いかにしてその示す道に従ったのか。それぞれの道は異なっている、その証しには一人一人の生涯に刻まれた神の御業があらわれている。

——召命から献身へ

榎本恵／大嶋重徳／岸本光子／齋藤友紀雄／陣内大蔵
／内藤留幸／野田沢／廣石望／森一弘／矢田洋子他

主よ、用いてください

B6判・96頁・本体1000円

子どものための祈りのことばをまとめた、祈りの例示集。クリスマスやイースターなど礼拝の祈り、母の日、遠足、運動会など行事の祈り、朝、寝る前、食事の祈りなど毎日の祈りを52テーマ収録。4〜5歳から使えるひらがな表記の祈りのほか、みんなで祈れるリタニも併記。

大澤秀夫／真壁 巖監修

かみさま、きいてー！ 子どものいのり

■日本キリスト教団出版局

INFORMATION 近刊情報

福音と世界

2019年7月号

特集 『聖書 聖書協会共同訳』を読む

寄稿者 月本昭男 辻学 山口里子 越川弘英 金迅野
白井一美 古賀博 望月麻生 沢知恵 富田正樹

好評連載

パピロンの路上で Conjectures of a Son
of a Preacher Man (マニエル・ヤン)、神の酒(石
井光太)、テモテ書(辻学)、福音書記者たちの
饗宴(松本あずさ)、遺跡が語る聖書の世界(長
谷川修二)、わたしはロックがわからない(山口
政隆)、聖書とわたし(安田菜津紀)ほか

A5判・本体 588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

から集室編



短歌の投稿サイトを見ていたら、

「懸命にビリ走る子にもういいよも
ういいからと拍手を送る」(えいこ
ママ)、という作品に出合った。図
体ばかり大きく鈍足であった私に
とって、この歌は他人ごとではな

い。小学生のころ、運動会で一等地どころか上位に入ったこ
ともなかった。体力不足のせいか、全力で走ると体がのけ
反ってしまい加速できないのだ。徒競走ではゴールすると
順位別の「等旗」の下に並ばれる。小学校の六年間、つ
いぞ一等、二等の晴れがましい「等旗」の下に並ぶことは
なかった。

その時、「えいこママ」のように、私の母もゴールまで

予告

本のひろば

2019年8月号

本・批評と紹介

ジェームズ・D・G・ダン著『使徒パウロの神学』、
長谷川勝政著『英学者 本田増次郎の生涯』、榎本
てる子著『愛し、愛される中で』、『バックストン
著作集3——説教Ⅲ、鎌野善三著』3分間のグッ
ドニュース「詩歌」、水草修治著『失われた歴史
から』、小友 聡著『コヘレトの言葉を読もう』、
タイム・ステッド著『マインドフルネスとキリス
ト教の霊性』他

私を見届けてくれたのだろうか。最下位の「等旗」の下に
並ぶ私を、ひとり励ましてくれたのだろうか。観衆の多く
は、俊敏な子が、体の大きな子を韋駄天のごとく抜き去る
ことにヤンヤの喝采を送る。しかもスケジュールの詰まっ
た運動会では、大方の勝負がつくと観衆の目は、次のスター
ト組に移ってしまう。その時、まだ遅れながらも走ってい
る子がいるのに。

ビリを走るわが子をゴールまで見届け、応援し拍手して
くれるのは「えいこママ」だけであろう。そのまなざしに、
井上洋治著作選集6『人はなぜ生きるか/イエスのまなざ
し』(日本キリスト教団出版局)、に著わされた「アッパの
悲哀のまなざし」が重なってくる。(寺田)

教会や家庭、学校で使用できる
 子どものための祈りのことば集

かみさま、きいて!

こどものいのり 大澤秀夫/真壁 巖 監修



2019年6月18日刊行予定

子どものための祈りのことばをまとめた、祈りの例示集。礼拝の祈り、行事の祈り、毎日の祈りを、計52テーマ収録。4～5歳から使えるひらがな表記の祈りのほか、みんなで祈れるリタニーも併記。おとなもいっしょに祈れます!



収録の祈り

- 礼拝の祈り アドベント/クリスマス イースター etc
- 行事の祈り 母の日/遠足/夏のキャンプ/運動会 etc
- 毎日の祈り 朝/寝る前/病気るとき 友だちのために etc

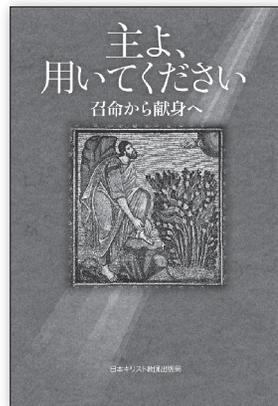
◆B6判 並製・96頁
 1,080円

カトリック・プロテスタントの献身者33名の証し

主よ、用いてください

召命から献身へ 2019年6月24日刊行予定

牧師、司祭、ブラザー・シスターはどのような神の声を聞き、いかにしてその示す道に従ったのか。『信徒の友』連載「神に呼ばれて」に、書き下ろしを追加して33名の証しを収録。◆四六判 並製・154頁・1,620円



- | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|------|
| 執筆者 | 明石義信 | 有住 航 | 井手口 満 | 榎本 恵 |
| 老田 信 | 大嶋重徳 | 川上善子 | 岸本光子 | 小嶋三義 |
| 齋藤友紀雄 | 酒井陽介 | 佐藤真史 | 澤田和夫 | 薛恩峰 |
| 陣内大蔵 | 高原三枝 | 瀧山喜与実 | 竹村真知子 | 立石真崇 |
| 田中文宏 | 筒井昌司 | 内藤留幸 | 野口忠子 | 野田 沢 |
| 廣石 望 | 福万広信 | 堀川 樹 | 三河悠希子 | 三木メイ |
| 森 一弘 | 森 言一郎 | 矢田洋子 | 山口政隆 | |

6月の新刊 (価格表示は税抜)

最も信頼できる講解!!



ただ一つの慰め 『ハイデルベルク信仰問答』によるキリスト教入門
吉田隆
聖書が語る福音の真髄を、美しくしかも力強い言葉で語る『ハイデルベルク信仰問答』。その訳者による最も信頼できる講解。人間の魂の奥深くに訴える信仰の確かな羅針盤。教会での読書会や受洗準備のテキストに最適。

吉田隆

● 四六判・320頁・本体2,300円

ペトロ岐部カスイ

五野井隆史

ローマで司祭となるも帰国後拷問・惨殺されたイエス会士のドラマティックな生涯を辿る。百点以上の図版や文獻一覽、索引など、貴重な資料を豊富に収録。

● B6判・340頁・本体1,900円



好評既刊



シドティ復顔図 (国立科学博物館所蔵)

江戸時代中期、日本に潜入して捕らえられ、江戸の切支丹屋敷で新井白石の訊問を受けた宣教師シドティの、イタリヤでの研究を元に日本語原資料から補完した初の学術的伝記。

● 四六判・320頁・本体2,400円

ジョヴァンニ・バッティスタ・シドティ
使命に殉じた禁教下最後の宣教師
マリオ・トルチヴィア 北代美和子/筒井砂訳 高祖敏明監訳

ぬくもりの記憶 片柳弘史

『こころの深呼吸』が2018年のキリスト教書店大賞を受賞、続く『始まりのことば』も大好評! 十万人を超すツイッターのフォローをもつ片柳神父による最新刊!



愛は心に降り積もる

故郷の風景、キリスト教との出会い、神父になるまでの道のり、暮らしの中のささやかな喜び、懐かしい日々の思い出を呼びおこす、珠玉のエッセイ集!

● B6変判・144頁・本体1,000円

好評既刊

始まりのことば

聖書と共に歩む日々366 片柳弘史

短い聖句と黙想の言葉。毎日少しずつ聖書に親しみながら、新しい歩み始めるために。求道者・受洗者に最適!

● A6判(文庫判)・300頁・本体900円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一九年七月一日発行 毎月一回一日発行
本のひろば 第七三九号 二〇一九年七月号

発行所 〒163-0614 東京都新宿区新小川町九一-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3361-6111 振替0170-511679
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 佃平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3361-5670

定価七八円(税抜七二円) 70円
一年分一三〇〇円(送料料)